



KEIO UNIVERSITY  
FACULTY AND GRADUATE SCHOOL OF  
SCIENCE AND TECHNOLOGY

## STUDY ABROAD PROGRAMS



## 海外留学プログラム

慶應義塾大学 理工学部・理工学研究科

**2017**





# It's a small world!

## 海外留学のすすめ

幕末の日本、黒船来航で日本人は世界の広さを知りました。そして、その世界の広さを真っ先に確認したのが、私たちが学ぶ慶應義塾の創設者・福澤諭吉先生です。1858年の慶應義塾創設からわずか2年後の1860年に福澤先生は咸臨丸で渡米、さらに2年後の1862年には欧州各国を歴訪し、「西洋事情」、「文明論の概略」といった名著を通して「狭い世間に生きる」日本人に世界の広さを紹介し、文明生活の意義を説きました。

あれから150年、世界の複雑さは増したとしても広さは変わりません。となれば、世界の複雑さを理解するためには、自らが動いて世界を駆け回り、世界を狭くするしかないでしょう！

実際に皆さんがエンジニアとして世に出るときには世界を股にかけて技術の最先端を追求し、マーケットを世界中に拡大することが望まれます。また、研究者として新発見に巡り合えたと思いついても、自分の知らない他国で既に発見されていたらどうでしょう？井の中の蛙の悲しみを実感するだけです。すなわち、世界が広い狭いかは自分の活動力・範囲次第という現代において、「慶應義塾大学理工学部で学ぶ学生にこそ、世界への第一歩・二歩を学生時代に踏み出してほしい」というのが我々教員の願いです。

理工学部ではその願いを実現するためのプログラムをいろいろと用意しています。例えば日本の他大学に先駆けて、慶應と海外の二つの大学の学位が同時に取得できるダブルディグリープログラムを設置しました。その他の協定校への交換留学も、計画次第では留学期間を含めた4年間で(すなわち留年することなく)慶應義塾大学を卒業することが可能になっています。留学先や制度に関する相談は、いつでも矢上キャンパス学生課国際担当(ic-yagami@adst.keio.ac.jp)で受け付けています。

世界への扉は大きく開いています。後は君たちがチャレンジするのみ！日本的な世間の狭さから脱却して、「It's a small world」と日々実感できる人間に成長してください。

理工学部長・理工学研究科委員長 伊藤 公平

## Contents

<b>STEP 1</b>	自分に合った留学を考えよう！	<b>3</b>
<b>Column</b>	<私の英語勉強法> システムデザイン工学科 3年 上水流将吾	<b>4</b>
<b>STEP 2</b>	理工学部における留学プログラムを知ろう！	<b>5</b>
<b>STEP 3</b>	語学の実力を知ろう！磨こう！	<b>11</b>
<b>FAQ</b>		<b>13</b>
<b>奨学金について</b>		<b>14</b>
<b>留学体験記</b>	グローバルリーダーシップセミナー実地研修 2016年度 派遣生 化学科 3年 相原百花	<b>15</b>
	アーヘン工科大学 2016年度 サマースクール派遣生 システムデザイン工学科 3年 原田大毅	
	ECN 2015年度 フランス語フランス文化研修プログラム派遣生 応用化学科 4年 土谷澤	
	ミュンヘン工科大学 2015年度 研究研修派遣生 開放環境科学専攻 2016年度 修士課程修了 清水友也	

このパンフレットでは、理工学部生が卒業までに「留学」を実現するための様々な道筋を整理し、わかりやすく説明しています。留学といっても形態は様々で、どのようなスタイルが自分にあっていられるかを考えるには「Step 1」が役に立ちます。「Step 2」には具体例として慶應義塾が提供する様々なプログラムや参加者の体験談を紹介しています。また、留学に際し絶対必要となる語学力を磨くための工夫は「Step 3」に紹介しています。これらの情報を大いに活用し、早い時期から少しずつでも準備を進め、可能性を広げていくとよいでしょう。パンフレットに載せきれない内容は理工学部のウェブサイト調べることができます。また、カリキュラムに関する個別の学習相談は学習指導の先生に、留学先での取得単位の変換については学生課学事担当に、その他の留学全般については国際交流委員の先生や学生課国際担当に相談してください。学生生活を国際経験でさらに豊かにされることを願っています。

### 矢上キャンパス学生課国際担当

TEL: 045-566-1468 FAX: 045-566-1469 E-MAIL: ic-yagami@adst.keio.ac.jp

矢上キャンパス学生課国際担当では、理工学部・理工学研究科に在籍する学生向けに、留学や国外研修、奨学金等に関する情報提供、留学相談を行っています。学生課国際担当(25棟110号室)にて体験記の閲覧サービスを行っています。ホームページも一度ご覧ください。また、春学期に「留学フェア」を日吉キャンパスにて開催しています。

国際センター [http://www.ic.keio.ac.jp/keio\\_student/](http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/)

矢上キャンパス学生課国際担当 <http://www.st.keio.ac.jp/contents/ic/>

# STEP 1

## 自分に合った留学を考えよう！

ここでは留学の目的を整理し、あなたに適した留学プログラムを選び、準備のスケジュールを立てるための大まかな説明をしています。

### 1-1 目的・プランを考える

留学を具体的に考えていく際、大きなポイントとなるのが「なぜ留学したいのか」「何を学びたいのか」「将来にどう生かしたいのか」という三点になります。

上記の三つの問いかけに対する自分なりの答えを思い浮かべつつ、以下の表を参考にしながら最適なプログラムを見つけましょう。

【期間・目的ごとに整理した理工学部生向けプログラム】

期間	目的	学部生が参加できるプログラム	大学院生が参加できるプログラム
1年以上	学位を取得	DD	DD ルノー（慶應を卒業後海外進学）
半年～1年	リサーチ・フィールドワーク	IAESTE	塾派遣 研究研修 IAESTE
	コースワーク	塾派遣 《私費留学(SAF, CAP等)》	塾派遣 学習研修
～半年	リサーチ・フィールドワーク	IAESTE	IAESTE 研究研修
	コースワーク	《私費留学(SAF, CAP等)》	学習研修
夏・春休み	海外体験・語学	アーヘンSS 在外研修 INNOVATE INTRAX IAESTE IMTアトランティック* ECN SAF 《外部団体主催の語学研修等》	在外研修 INNOVATE INTRAX IAESTE IMTアトランティック* ECN 《外部団体主催の語学研修等》

注) リサーチ・フィールドワーク：研究テーマを掘り下げたり、研修に参加する留学  
コースワーク：大学の講義を履修することを主とした留学  
■：慶應主催のプログラム ■：外部の団体が主催する慶應理工学部生向けプログラム等  
※旧テレコムプルトーニュ（P.5 参照）

長期留学の準備には最低でも1年から1年半準備期間が必要です。チャンスを逃す事のないよう、早めに計画に着手するようにしましょう。また、短期プログラムの場合、夏休み期間中に実施されるものは4月頃、春休み期間中に実施されるものは12月頃に締め切られるものが多いので、早めに情報を確認するようにしてください。

### 1-2 語学を準備する

プログラムにもよりますが、多くの場合、応募する時点で一定以上の語学力がある事が求められます。また語学力はそれを客観的に示す試験のスコアを持っている事が必要です。例えば慶應義塾派遣交換留学で英語圏の大学への留学を希望する場合は、TOEFL iBT 80点～100点(PBT 550点～600点)のスコアが標準的な条件になることがあります。

英語が得意でなくとも、目標を立て勉強を続ければ必ず伸びます。早速今から勉強を始め、語学試験も受けてみてください。試験の申込みを行ってから、試験を受け、スコアが手元に届くまで一定期間かかりますし、試験を何度か受けるうちにスコアが伸びるとも言われています。長期留学を目指し、まずは短期の語学留学に参加することもできるでしょう。いまから留学先での自分をイメージしながら、時間を作って力をつけていきましょう。語学力を伸ばすための具体的な方法については、次ページをご覧ください。

# Column

## 「私の英語勉強法」

システムデザイン工学科 3年 上水流将吾

私が受験や TOEIC において試されるような英語力ではなく、会話において要求される英語力をどのようにして養成したのかを記します。

大学入試において英語の得点は重要であると聞いていたため、高校時代の私はとりわけ英語の勉強に力を入れており、英語を武器に慶應大学合格、そして入学直後に行われた必修英語のクラス分けテストでも高得点をマークし堂々の上級クラスでした。慶應理工学部の上位 10% のみが立ち入ることを許された上級クラスに入ることができたということでは少し優越感に浸っていた私ですが、英語の初回授業で早くも己が英会話力の無さを思い知らされました。というのも、ミスの許されない受験英語出身の私はクラスのおよそ半分を占める留学生や帰国子女達の会話に全く混ざることができなかったのです。

そんな私が受験の道具ではなく、話される言語としての英語に対する恐怖心を拭きかけとなったのは、2年次の夏休みに行ったサークルの海外遠征でした。世界の大学合唱団が同じ施設に集まり同じ曲を練習し、そしてドイツ中を演奏旅行するというものです。先述のとおり英会話に自信はなかったものの、笑顔でリアクションがとれれば問題ないという先輩の言葉を信じ切り、同じく英語に不安のある同期らと共に日本を飛びました。

結論から言うと、共同生活が始まってから 3,4 日目には笑顔でリアクションをとる以上の意思疎通を行っていました。私はこれまで海外経験がなく、英語が不安で文化交流にも正直興味はなかったのですが、不思議なことに、いざ自分の知らない世界を知っており、自分と違う歴史、文化のもとで暮らす彼らを前にすると、彼らと話してみたい、仲良くなりたいと思うようになったのです。咄嗟に適切な英語が出てこなかったりジェスチャーのとらえ方が異なり誤解を生んだり障害は多々ありましたが、それでも毎日の練習後には自国のことや自身のこと、お互いの出身国に対して漠然と抱いているイメージは実際のところどうなのかなどについて、ときには空が白んでくるまで熱く語り合ったのでした。

さて、そんな私ができるアドバイスは、「とりあえず英語で話してみよう」これに尽きます。

受験英語を通して身につけた机の上での英語力を会話で使うための瞬発力を養うには、やはりしどろもどろになりながらも使ってみるという訓練を避けては通れません。特に英会話に苦手意識のある人は中学英語でできるような、簡単な日常会話ができるようになることをまずは目指してみると良いと思います。

しかし、「英語で日常会話をする訓練をしよう」といっても、そのような訓練の機会が限られているのも事実です。私が遠征中に会った、英語が母国語でない学生は「隣国に頻繁に出かけるなどして訓練したんだ」と言っていました。島国である日本ではそのようなこともなかなか難しいものです。

そこで大学の講義を活用することをおすすめします。たとえば英語スピーキング 1 は英会話に慣れることに主眼が置かれています。私が履修したときは毎回の講義に少人数に分かれて英語で近況報告をするコーナーが設けられており、始めはみんなモジモジしていましたが最後はあちこちから笑い声が聞こえてくるようになりました。自分と同じように英会話に苦手意識のある人が集まってくるためそう大きなプレッシャーもなく、英会話初心者には最適な講義だと思います。その他の訓練方法として英会話教室に通うことも手段として挙げられますが、最近では日常会話で使える簡単な例文集も書店に並んでいるため独力で鍛錬する根気のある人にとってはそちらも経済的で良いかと思います。

海外遠征が始まったばかりの頃、私はショックを受けました。色々な国からやってきた大学生たちが談笑している中に私も混ざりたいと強く願うも、日本語は一切理解されません。授業では最悪日本語で話して誤魔化することもできませんが、そんな誤魔化しは全く通用しない世界です。目に見えない「言語の壁」を初めて明確に意識しました。しかし、英語だとみんな理解してくれるのです。不安を拭き切れぬまま苦労して捻り出した英語の単語、文が理解されたときの喜びは何物にも代えがたいものがありました。また、慣れてくると気付いたのですが、他の国の学生たちもときには「Um...I don't know how to say in English」と言って別の表現を探しており、私たちとそう大きな違いはありませんでした。ただ、彼らにはそれでも英語を積極的に使おうという勇気があっただけでした。

だから、英会話に苦手意識のある人もまずは勇気を出して、今一度英語と向き合ってください。大丈夫、心配は無用です。英会話に必要なだけの知識を、既に皆さんは持っているのですから。



# STEP 2

## 理工学部における留学プログラムを知ろう！

ここでは、慶應義塾大学理工学部における留学プログラムを紹介します。

詳しいプログラムの仕組みは国際担当 HP で確認してください。

<http://www.st.keio.ac.jp/contents/ic/>

### 理工学部ダブルディグリープログラム

理工学部には、慶應義塾と海外の一流校の必要課程を修了することにより、慶應および派遣大学から同時に学位を取得できるダブルディグリープログラム (DD) という制度があります。世界を舞台に国際的エンジニアとして活躍することを目指す人にはお勧めのプログラムです。

詳細は別冊「Double Degree Program」でご確認ください。

#### ◆ 学部生を対象としたダブルディグリープログラム

本プログラムは学部 1、2 年次を慶應、3、4 年次をフランス、そして再び修士課程を慶應で修める事により、本学大学院理工学研究科から修士(理学または工学)、派遣先機関から工学修士相当の学位がそれぞれ授与されるダブルディグリープログラムです。本プログラムは、日本・フランス 双方で学生生活を送ることを可能とするものであり、その最大の目的は、現代社会に必要とされる国際的な視野と、深い専門知識とを併せ持つ国際エンジニアを育成することにあります。

パートナー校	[フランス] エコールサントラルグループ(リール、リヨン、マルセイユ、ナント、サントラルスペレック※)
期間	慶應義塾の学生は理工学部 1・2 年次の学習を終えた後、3 年次の夏からパートナー校へ 2 年間留学します。帰国後、理工学研究科に入学して修士課程を修了します。
対象	理工学部生(応募時学部 2 年生)
学位	慶應義塾大学理工学研究科の修士(理学および工学)およびパートナー校からも工学修士相当のエンジニア資格

※2015 年 1 月にエコールサントラルパリとスペレックが合併して、サントラルスペレックとなりました。

#### ◆ 大学院生を対象としたプログラム

本学大学院理工学研究科修士課程 1 年春学期科目の履修を終えた後に秋学期から派遣先教育機関へ 1 年半留学します。1 年半後の 4 月に慶應へ戻り修士課程 2 年に進学し、1 年後の 3 月に修士課程を修了すると慶應義塾の修士号と同時に派遣先教育機関からも工学修士相当のエンジニア資格が授与されます。修士課程入学から留学期間を含む合計で修士課程 3 年間のプログラムです。派遣先では英語もしくはパートナー校指定の言語で開設されているコースを受講します。

パートナー校	[スウェーデン] ルンド大学、スウェーデン王立工科大学、[スペイン] マドリード工科大学、[イタリア] ミラノ工科大学、[ドイツ] アーヘン工科大学、ミュンヘン工科大学、[フランス] IMT アトランティック※、パリ国立高等鉱業学校 [ベルギー] ブリュッセル自由大学、ルーヴァンカソリック大学
期間	修士課程 1 年の秋学期からパートナー校へ 1 年半留学し、帰国後、修士課程 2 年に進学し、修士課程を修了します
対象	理工学研究科修士課程に入学を予定する者(応募時学部 4 年生)
学位	慶應義塾大学理工学研究科より修士(理学および工学)およびパートナー校より工学修士相当のエンジニア資格

※2017 年 1 月にテレコムブルターニュはナント国立高等鉱業学校と合併して、IMT アトランティックとなりました。

### 理工学部 短期在外研修

理工学部では夏休みや春休み中に参加できる留学プログラムを用意しています。まずは海外へ第一歩を踏み出したいと考えている方におすすめです。

#### ドイツ Keio-Aachenサマースクール (理工学部主催)

慶應義塾理工学部と50年以上の交流の歴史を持つドイツの名門アーヘン工科大学の全面協力によって実現したプログラムです。ドイツ語およびドイツ文化に関する学習と、英語によるドイツの大学の研究を垣間見ることができるエンジニアリング入門講座を受講する短期研修です。

期間	8月の約3週間
募集人数	20名
対象	主として学部2・3年生、ドイツ語の学習歴が1年以上の者
単位	総合教育科目「ドイツ語・エンジニアリング在外研修」(2単位)

#### フランス ECNフランス語フランス文化研修プログラム(理工学部主催)

交流の歴史が長いECNでの語学研修は、慶應の学生に向けプログラムされたアットホームな環境でフランス語およびフランス文化について学ぶことができます。語学授業に加え、近郊の名所旧跡等を訪ねるエクスカージョンの企画もあり、フランスの歴史や文化、風土に対する理解を深めることができます。また、ホームステイにより、「生きたフランス感覚」も身につきます。

期間	2月初旬～3月中旬の約6週間
募集人数	8～12名
対象	全学部・全研究科、原則として学部2年生以上のフランス語学習経験者
単位	総合教育科目「フランス語在外インテンシブ」(4単位)

#### ドイツ Keio-Aachenスプリングスクール (理工学部主催)

慶應義塾理工学部と50年以上の交流の歴史を持つドイツの名門アーヘン工科大学の全面協力によって実現した、全学部・研究科生対象のプログラムです。ドイツ語の研修に加え、ホームステイや現地の学生との交流、フィールドトリップ等も多数あり、ドイツ文化への理解や知見を深めることができます。

期間	3月中の約3週間
募集人数	10名
対象	全学部・全研究科
単位	総合教育科目「ドイツ語・ドイツ文化在外研修」(2単位)

#### フランス IMTアトランティック(旧テレコムブルターニュ)語学研修

理工学研究科との協定に基づき、フランスのテレコム系のグランゼコール、IMTアトランティック(旧テレコムブルターニュ)における語学研修です。世界各国から集まる学生とともにマルチカルチュラルな環境でフランス語を学ぶことができます。両校の友好関係に基づき、慶應の学生には割引料金が設定されています。

期間	8月の約3週間
募集人数	5名程度
対象	学部生・大学院生

#### INNOVATE -International Technology, Innovation, and Leadership Conference-

世界を舞台に活躍するアジアの国際的な先端企業のビジネスリーダーを訪ねて見聞を広める海外企業訪問研修プログラムです。アメリカのピッツバーグ大学が主催し、慶應を含む理工系を学ぶアメリカおよびアジアの学生の中から選ばれた派遣生たちが、国境を越えた交流を行い、グローバルな視野を広げることができます。

期間	3月初旬～中旬の約2週間
募集人数	5名程度
対象	学部3・4年生、大学院生

#### 東義大学韓国語研修

慶應義塾大学と東義大学との間の交流協定に基づき、2011年度より語学研修をスタートしました。東義大学は釜山市の中心街からも程近くに位置する私立大学です。10の学部からなる総合大学で、18,000人の学生が学んでいます。本語学研修は、初心者向けの韓国語研修の他、韓国文化に関する社会科学見学等も行われます。

期間	2月中の約2週間
募集人数	10名程度
対象	学部生、大学院生

## 研究研修・学習研修

慶應義塾大学理工学研究科の交換協定に基づく理工学分野に特化した交換研修プログラムです。派遣先の教員との事前打ち合わせを経て、海外の大学で研究生、理工学専門の勉強を希望する方にお勧めです。大学院生を対象としており、研究テーマ・受講科目や出願および派遣時期・期間(3ヶ月～12ヶ月)は個々の大学により異なりますので、学生課国際担当ホームページおよび各校のホームページを参照してください。派遣先での授業料・研修料は免除されます。派遣先により条件が異なりますが、自分の専門分野に特化した留学を自ら作り上げることができ、また比較的短期間から留学できるため、理工学研究科生にはお勧めのオーダーメイドの留学といえるでしょう。研究研修は指導教員の下で研究を実施するプログラムで、学習研修は協定校で開講される一般の授業を受講するプログラムです。

<b>研修先</b>	[フランス] エコールサントラルグループ(リール、リヨン、マルセイユ、ナント、サントラルスペレック※1)、エコールポリテクニク、IMTアトランティック※2、パリ国立高等鉱業学校、アルビ国立高等鉱業学校、国立インサ工科大学、ENSTA パリテク、ボルドー工科大学、EISTI(国際情報処理科学大学院) [ドイツ] ハノーヴァー大学、アーヘン工科大学、ミュンヘン工科大学、レーゲンスブルグ大学、シュツットガルト大学 [スウェーデン] リンシャオピン大学、スウェーデン王立工科大学、ルンド大学 [スペイン] カタロニア工科大学、マドリード工科大学、バレンシア工科大学 [デンマーク] デンマーク工科大学 [イタリア] ミラノ工科大学 [ベルギー] プリュッセル自由大学、ルーヴァンカソリック大学、リエージュ大学 [ポーランド] ヴロツワフ工科大学 [韓国] 東義大学校 [台湾] 国立清華大學
<b>期間</b>	3ヶ月～12ヶ月間
<b>募集人数</b>	各校若干名
<b>対象</b>	大学院生
<b>単位</b>	専攻の審査を経た上で、研究研修は「国外研究AまたはB」として、学習研修は理工学研究科設置科目として単位認定されます。

※1 2015年1月にエコールサントラルパリとスペレックが合併して、サントラルスペレックとなりました。

※2 2017年1月にテレコムブルターニュはナント国立高等鉱業学校と合併して、IMTアトランティックとなりました。

## IAESTE 国際インターンシップ

理工系学生のための国際インターンシップを仲介する社団法人日本国際学生技術研修協会 (IAESTE、通称「イアエステ」) による国外インターンシップです。国外の企業または大学、研究機関にて職業体験を行います。IAESTE の派遣生認定試験を受けた上で、認定試験、専門知識、研修内容などを考慮し選考・マッチングが行われます。詳細、体験談はホームページをご覧ください。

<b>期間</b>	先方との話し合いにより、2ヶ月～1年間(多くは2～3ヶ月間)
<b>対象</b>	3年生・4年生・大学院生
<b>単位</b>	申請により「学外特別研修(インターンシップ)」の単位が認定される可能性があります。
<b>HP</b>	<a href="http://www.iaeste.or.jp">http://www.iaeste.or.jp</a>

## 理工学部 4 学期制に基づく夏期留学・国際インターンシッププログラム

理工学部の一部学科では3年生を対象に4学期制の実施を2012年度より開始しました。本プログラムでは、4学期制を利用した理工学部生が春学期後半(6月と7月)と夏休み(8月と9月)を合わせた100日程度を海外で過ごし、欧米大学サマースクールへの留学または国外企業でのインターンシップに励む事で、理工学部卒業に必要な単位の一部を海外にて取得し、同時に、世界中から集まる優秀な学生やインターンとの協調を通じて、独立して生きる力と、協力して生きる力を備えた人間形成を目指します。詳細については以下 HP をご確認ください。

<b>期間</b>	春学期後半(6月と7月)と夏休み(8月と9月)を合わせた100日程度
<b>募集人数</b>	定員になり次第締め切られるので、興味がある場合は早めに学科の学習指導教員に相談してください。
<b>対象</b>	4学期制実施の学科所属の学部生
<b>HP</b>	SAF 海外大学サマーセッション短期大学 <a href="http://japan.studyabroadfoundation.org/apply_now/keio_science.php">http://japan.studyabroadfoundation.org/apply_now/keio_science.php</a> <a href="http://www.youtube.com/watch?v=zcazaGwMJXs">http://www.youtube.com/watch?v=zcazaGwMJXs</a> INTRAX 海外インターンシッププログラム <a href="http://www.intraxjp.com/internship/students.html">http://www.intraxjp.com/internship/students.html</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=QX8DpmUSKa4">https://www.youtube.com/watch?v=QX8DpmUSKa4</a>

## グローバルリーダーシップセミナー

理工の専門的な教育に入る前に、世界に通じる基本的素養(国際感覚、論理的思考力、討論力、言語力、自律性)の必要性を体得してもらいたい。世界の様々な問題に関心を持ち、自分が置かれている立場を広い視野で認識し、多様な価値観や文化を理解し、積極的に議論に参加できるようにします。

学期中に4つの異なるテーマについて講演を聞き、それについて日本語と英語で討論を行います。週2回(月・木)の授業で、週の前半が日本語による講演と質疑応答、後半が同じテーマについての少人数での英語討論です。各テーマには3週間をかけた議論します。

なお、関連科目として「グローバルリーダーシップセミナー実地研修」があります。この「グローバルリーダーシップセミナー実地研修」の履修希望者が定員を越えた場合には、基本的には「グローバルリーダーシップセミナー」履修者を優先します。

<b>募集人数</b>	32名
<b>対象</b>	理工学部1・2年生。科目の趣旨に照らしてとりわけ意欲の高い少人数の有志のみを対象とします。春・秋学期ともに内容は同じで、いずれか一方の学期にのみ履修できます。
<b>履修上の注意</b>	春学期・秋学期に関わらず、履修に興味のある人は4月のガイダンスに必ず出席してください。

## グローバルリーダーシップセミナー実地研修

学期後の長期休暇中(夏休み、春休み)に外国の大学と協力して2泊3日程度の合同研修を外国(ないし日本)で行うものです。外国大学の学生たちと共に講義を受け、それを踏まえたグループプロジェクトやグループプレゼンテーションを行います。

<b>パートナー校</b>	2017年度(予定) 高麗大学(韓国)、淡江大学(台湾)
<b>募集人数</b>	16名(詳細は募集要項を確認して下さい。)
<b>対象</b>	理工学部1・2年生



## 派遣交換留学

この制度は、慶應義塾が外国の大学との間で交わした協定に基づいて実施するプログラムで、採用された学生は1年間海外の協定校にて専門の勉強をしながらキャンパスライフを経験することができます。手続きや協定校の詳細は国際センターが発行する「留学のてびき 派遣交換留学生募集要項」をご覧ください。また、世界約120校の協定校の中から留学先を選ぶ際は、理工学部学生課国際担当が配布する「理工学部生にお勧めの大学一覧」や各キャンパスに用意された過去の参加者からの報告書を参考にするとよいでしょう。

期間	1年間	募集人数	各校若干名	対象	学部・大学院生
単位	留学先で取得した単位は、学部 / 研究科の教授会 / 研究科委員会の承認があれば、学則に定められた範囲内で認定されます。				

## 短期海外研修プログラム（夏季・春季）(国際センター主催)

国際センターでは、全学部・全研究科在籍生を対象として（一部、学部生のみ対象）、夏季・春季休校期間中に短期海外研修プログラムを実施しています。講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会となっています。

### ◆米国 ノートルダム大学夏季講座

期間	8月上旬～中旬の2週間	募集人数	15名
概要	日米ビジネス、そして米国の政治・社会に重点を置いた講義と関連施設への郊外学習、シカゴへのフィールドトリップを通じて専門科目の知識および英語能力の向上を目指します。		
単位	2単位(学部生のみ対象)		

### ◆米国 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

期間	8月上旬～中旬の2週間	募集人数	35名～40名
概要	全米でハーバードに次ぐ歴史を誇る米国東部の名門大学で、米国文化について幅広く学びます。グループワークやワシントンDCのフィールドトリップ、現地学生との数多くの交流機会もあります。		
単位	4単位		

### ◆米国 ワシントン大学夏季講座

期間	8月上旬～下旬の3週間	募集人数	30名～35名
概要	「持続可能な社会」という観点からゴミ問題や地球温暖化など、現在、自然環境に対して脅威となっている事象とビジネスの関係を考えます。トピックに関連したフィールドワークがあることも魅力のひとつです。		
単位	4単位		

### ◆英国 ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座

期間	8月上旬～9月上旬の4週間	募集人数	62名
概要	前半2週は英語の集中研修、後半2週間は、脳神経科学、シェークスピア英文学、国際関係論の中からテーマを1つ選択して受講します。自分の専攻分野を越えて、知識を広げることが可能です。		
単位	4単位		

### ◆英国 オックスフォード大学クライストチャーチ・コレッジ夏季講座

期間	8月中旬～9月中旬の4週間	募集人数	50名
概要	13名の英国首相を輩出した、クライストチャーチ・コレッジで学ぶプログラムです。午前は英語の集中研修を行い、午後は現代英国社会、国際ビジネス、国際関係論の中からテーマを1つ選択して学びます。		
単位	4単位		

### ◆英国 オックスフォード大学リンカーン・コレッジ夏季講座

期間	8月下旬～9月上旬の2週間	募集人数	20名
概要	午前はディベートや関連トピックスに関する講義、午後はプロの演劇ディレクターが指導するワークショップが行われます。プログラム最終日にはシェークスピア演劇を通して上演します。		
単位	4単位		

### ◆フランス パリ政治学院春季講座

期間	2月中旬～3月中旬の4週間	募集人数	20名
概要	EUの政治・経済・社会・文化、およびEUと諸外国との国際関係について、英語で学びます。フランス語を学ぶ機会やEU関連機関の見学などのフィールドワークも予定されています。		
単位	4単位		

### ◆オーストラリア クイーンズランド大学春季講座

期間	2月中旬～下旬の2週間	募集人数	15名～20名
概要	ブリスベンにある名門クイーンズランド大学で、国際関係学を学びます。多彩な講義のほか、首都キャンベラへのショートトリップもあります。宿泊はホームステイ中心のため、現地の家庭生活も体験できます。		
単位	2単位		

### ◆オーストラリア シドニー大学春季講座

期間	2月中旬～3月上旬の3週間	募集人数	20名
概要	主にグローバルビジネスマネジメントと異文化コミュニケーションを学びます。英語研修や様々なアクティビティ、後半2週間のホームステイなど、多角的にオーストラリア文化を体験できます。		
単位	2単位		

### ◆米国 タフツ大学春季講座

期間	2月下旬～3月上旬の2週間	募集人数	10名～15名
概要	フレッチャースクールの講師等から米国の対東アジア外交政策について学べます。大きな転換期を迎えた米国を体感しながら、国際関係学の最高峰で学べるチャンスです。講義をより深く理解する助けとなるよう、講義内容に沿った英語の授業も受けられます。		
単位	単位未定(2016年度は開講初年度のためなし)		

### ◆シンガポールおよびインドネシア シンガポールマネジメント大学春季講座

期間	2月中旬～3月上旬の3週間	募集人数	10名～15名
概要	社会が抱える問題をどのように解決するか、その手法や社会的企業のモデルを学びます。シンガポールで理論を学んだ後、フィールドスタディのためインドネシアに1週間滞在し、再びシンガポールに戻ってまとめのグループプレゼンテーションを行います。		
単位	単位未定(2016年度は開講初年度のためなし)		

### ◆延世・復旦・立教・慶應リーダーシップフォーラム

期間	8月中旬の1週間	募集人数	8名
概要	日中韓の学生が理解を深め、将来、協力関係を築きながらリーダーシップを発揮する力を養うことを目的としています。延世大学(韓国)、復旦大学(中国)、立教大学、慶應義塾大学(日本)から合計約50名の学生が参加し寝食を共にします。英語で共通テーマについて講義を受け、ディスカッション、グループワークなどを行うほか、文化交流イベントも行われます。プログラム費(渡航費などは除く)は幹事校が負担します。		
単位	なし		

## 私費留学

### ルノー財団奨学金プログラム

ルノー財団により運営されるフランス(主にパリ)において定められたカリキュラムに沿って専門教育を受ける留学プログラムです。詳細はホームページをご覧ください。

対象	参加時に学士号または修士号を取得している者。学習に十分なフランス語能力がある者。
HP	<a href="https://www.fondation.renault.com/">https://www.fondation.renault.com/</a>

## STEP 3

## 語学の実力を知ろう！磨こう！

理工学部(外国語・総合教育) 井上京子教授

## 3-1 英語の力を知ろう！

理工学部生は全員、英語クラスのプレースメントテストとして G-TELP を受けていますね。G-TELP は日常生活の場面で英語を自由にあやつる力に焦点をあてたテストです。留学を志す人は、この他にもいくつか自分の英語力を測るテストを受けることをお勧めします。

今すぐ簡単に測れる方法としては、慶應生なら誰でもインターネットを使ってどこからでもアクセスできる英語自律学習システム ALC NetAcademy2 「スタンダードコース」のレベル診断テストがあります。★印のレベル表記で結果が示され、TOEIC テストスコアや TOEFL テストスコアとの関係を概算で表すと以下ようになります。

NetAcademy2 レベル	TOEIC スコア概算	TOEFL-PBT(=TOEFL-ITP) 概算	TOEFL-iBT 概算
★	300	400	32
★★	422	442	42
★★★	545	485	56
★★★★	667	528	71
★★★★★	790	570	88

## NetAcademy2 ログイン方法

URL: <https://hcalc01.flang.keio.ac.jp/onet2/>

アカウント・パスワードについては、理工学部および外国語研究センターの4月のガイダンスでお知らせします。

- ★が5つ出た人は今すぐにも塾派遣交換留学に応募できる英語力を持っている可能性があります。公式 TOEFL テストを受けて、その語学力を活かして、専門分野で何を学びたいか目標を定めたら、早いうちに是非留学してください。
- ★が4つ出た人は塾派遣短期海外研修(夏季講座・春季講座)や海外インターンシップなどにチャレンジして、生の英語に触れる機会を増やし、さらに英語力を磨いてください。
- ★が少なかった人は私費の短期留学という道もありますが、その前に大学で英語の選択科目を履修したり NetAcademy2 を自習しながら、こんな方法も試してみてください。

## TOEFL ITP で腕試し

TOEFL ITP とは、TOEFL Institutional Testing Program の略で、TOEFL の運営、実施を管理している ETS (Educational Testing Service) が企画、提供している海外の大学を含む教育機関などの団体向けに開発されたテストです。スコアに公的な効力はありませんが、出題形式や採点方法は TOEFL に準じており、TOEFL テストスコアと高い相関関係があるため実力を確認することができます。受験料は通常の6分の1です。日吉キャンパスなどで実施されますので、大学生協でスケジュールを確認し、申し込みを行ってください。

## 3-2 語学力を磨こう！

目標スコアなど決めて語学力を磨きましょう。試験対策本に取り組んだり、語学レッスンを受けること、英語であれば、次のスキルアップ方法を取り入れながら進めてみましょう。

- リスニング：自分の好きな洋画やドラマを DVD などの英語音声で見、テレビのニュースはニヶ国語放送の英語で聞くようにしましょう。通学時間が長い人には各種英語リスニング学習ソフトもおすすめです。

- スピーキング：日吉キャンパスなら独立館地下1階日吉コミュニケーション・ラウンジ、矢上キャンパスなら矢上国際交流サークルのラ・ポワールなどでのランチタイム、三田キャンパスなら南校舎の「国際交流コーナー」などに顔を出し、英語ネイティブスピーカーや非日本語母語話者と積極的に話す機会を持ちましょう。
- リーディング：自分の好きな分野(マンガ、推理小説、科学雑誌 etc.)の文章を英語で読みましょう。メディアセンターの電子ジャーナルやデータベースも充実しています。自宅からでも keio.jp 認証システムによるリモートアクセスサービスを用い『聞蔵II ビジュアル』の英文ニュース、『毎索』の The Mainichi、『日経テレコン 21』の Nikkei English News、『ヨミダス歴史館』の The Japan News が1日遅れで読めます。海外の新聞記事(英語)も LEXIS-NEXIS Academic で検索できます。
- ライティング：外国語教育研究センター主催アカデミック・ライティングのワークショップに参加し、アカデミック・ライティング・コンテストに応募してみましょう。語彙の使い方をチェックするなら British National Corpus が役立ちます。(メディアセンターHPのデータベース一覧「辞書・辞典」からアクセスできます)

## 外国語教育研究センターを活用しよう

自学自習での語学力のレベルアップには、日吉キャンパスの外国語教育研究センターをご利用ください。当センターの外国語ラウンジでは、DVD の視聴、オンライン学習教材(moodle)などの利用ができます。塾生の方は自由に使えます。

## メディアセンターを利用しよう

日吉や矢上のメディアセンターには留学準備に役立つ図書が収集してあります。理工学メディアセンターでは、本館1階の「学習支援コーナー」に、語学学習や留学準備に役立つ図書があります。

## 3-3 ワンポイントアドバイス

- 理工学部(外国語・総合教育)杉山由希子准教授  
リスニングの力をつけるには、慣れないうちはただ「浴びるように」聞き流すのではなく、テキストを見て何が話されているのかを必ず確認するようにしましょう。1回目に聞く時には、力試しにテキストを見ないのは構いません。しかしその後で、会話ではどの様に語と語が繋がって発音されるのか、話す速度が速くなると単語の発音はどの様になるのか、などを1つ1つ確認しないと、いつまで経っても聞き取れるようにはなりません。ラジオなどを聞いてほしい聞き取れるようになったら、今度は色々な物をたくさん聞くことをお勧めします。
- 理工学部(外国語・総合教育)ジョナサン・ディル准教授  
As I was growing up, I often heard my mother quote a line usually attributed to the great industrialist Henry Ford: "Whether you think you can or whether you think you can't, you're right!" As in life, so in language learning, always listen to your mother! The beliefs you bring with you into the classroom about your ability to learn a second language will make all the difference in the world.
- 理工学部(外国語・総合教育)井本由紀専任講師  
SNS の活用法  
Facebook や Twitter を利用して日頃から英語の文字情報に触れることができます。英語で発信しているグループや個人ユーザーをフォローしたり、The Economist, New York Times, Asahi Daily 等の英語メディアをお気に入りに加えることで随時、英語でのフィードを受けることができます。その他、友達と英語学習コミュニティを作り、英語でつぶやいたりコメントをするのも発信力を身につける手段として有効です。



# FAQ

## 海外留学に関するよくある質問

**Q** 外国語に自信がないのですが・・・

**A** 語学に 100%の自信のある人の方が稀でしょう。語学力を向上させたいから留学したいという方も多いでしょう。まずは、今の自分の力を客観的に知り、留学のチャンスをつかめるだけの語学力を磨きましょう。本冊子 STEP1 Column(4 ページ)を読み、具体的なアクションをとってみてください。

**Q** 交換留学したいのですが、協定大学についてどのように調べたらよいですか？

**A** 毎年発行される「留学のてびき 派遣交換留学生募集要項」および国際センターのホームページをご覧ください。協定大学については、各大学ホームページより情報を集めてください。また、各キャンパスの学生課国際担当では過去の参加者の報告書が閲覧できます。矢上キャンパス学生課国際担当では「理工学部生にお勧めの交換留学先一覧」の配布や留学を含んだ進路相談のために各学科の先生の紹介を行っていますので、まずは学生課国際担当 (ic-yagami@adst.keio.ac.jp) へご相談ください。また、大使館等で行う留学フェアに参加して情報収集するという方法もあります。

**Q** 取得してきた単位は卒業単位として認められますか？また、一年遅れずに、進級することはできますか？

**A** 取得してきた単位は卒業単位として認められることがあります。概ね次のような手続きが必要です。留学前に、留学先の大学のホームページで開講科目を確認し、履修計画を立てましょう。履修予定の科目をもし取得した場合に、理工学部設置学科専門科目あるいは専門基礎科目のどの科目として認定されるかを、学習指導副主任とよく確認しましょう。学部3年生で、帰国後遡及進級を希望している場合は、理工学部必修科目に相当する科目があるか、取得科目が認定されたら進級条件を満たすか、確認しましょう。単位の認定は、帰国後、学習指導会議で審議の上決定されます。なお、学部4年生は遡及卒業できません。詳しくは、学生課学事担当や学習指導副主任に相談してみてください。大学院修士課程において留学する場合は、時期や期間により標準年限2年で修了することができます。詳しくは、学生課学事担当や学習指導副主任に相談してみてください。

**Q** 学部3年生で留学した場合、卒業研究の研究室配属はどのようになりますか？

**A** 遡及進級を希望する3年生は、履修科目の確認に加え、研究室配属について、学習指導副主任とよく相談するとよいでしょう。学期の途中で帰国すると、単位認定されて3年進級条件を満たし4年生に進級することができても、4年生の必修科目の卒業研究の着手に影響が出ます。このような場合は、例えば帰国までは留学先からメールなどで指導を受け、帰国後から研究室に通う、など自分が指導を希望する教員が受け入れてくれるのか、必ず確認してください。留学してからの研究室配属の方法は、学科によって異なりますので学習指導副主任に相談してください。

**Q** 留学すると就職活動は不利になりませんか？

**A** 最近のニュースでも頻繁に取り上げられているように、社内の公用語を英語にしたり、新入社員の半数に留学生を採用したりするなど、国際化を見据えた大胆な取組を始める大手企業も増えています。そんな中、自分が留学経験で得たものや世界的な人的ネットワーク等を自信を持って就職活動の際にアピールする事ができれば、むしろ有利になる可能性も大いにあると言えます。また、海外にいても現地のキャリアフォーラムに参加したり、現地の日本人ビジネスマンに話を伺ったりなど、工夫次第で就職活動は可能でしょう。ただし、希望する職種によっては特定の就職活動が必要な場合がありますので、留学前に就職担当に相談する様にしてください。

**Q** 海外の大学院に進学をしたいのですが、どのように大学を探せばよいかわかりません・・・

**A** まずは研究室の先生に、自分の関心のある分野で著名な大学を聞いてみるとよいでしょう。または、自分が興味を持った論文を執筆した研究者が在籍する大学について調べてみるのも良い手段といえます。

## 奨学金について

留学費用は、留学先により物価が違いますし、同じ国でも地域や暮らし方により生活費は変わってきますので、費用をある程度抑えることは可能でしょう。過去の派遣生の報告書に費用が紹介されている場合がありますので、参考にしてください。

理工学部・理工学研究科では、海外学習を経験し世界に通じる人材となる在学学生を育てるために、「国際人材育成基金」が設立されました。本パンフレットに掲載されている留学プログラムに参加される学部生・大学院生が対象で、プログラム帰国後に申請となります。募集は春と秋にそれぞれ1回ずつ行われます。

支給金額はプログラムや年度によって異なりますが、過去の支給例は以下のとおりです。

・研究研修(1年間)：30万円(JASSOの海外留学支援制度(協定派遣)において奨学金を受給する派遣生は、国際人材育成基金では支給されない可能性があります。)

・私費留学(1年間)：20万円

・国際センター主催夏期在外研修：20万円

・ドイツ Keio-Aachen サマースクール：16万円(JASSOからの支給がある場合はそれを含む)

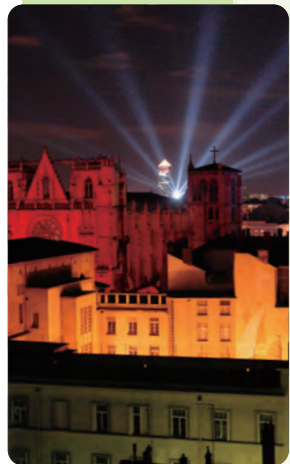
・学部ダブルディグリー 1年目：40万円 2年目：40万円

・大学院ダブルディグリー 1年目：40万円 2年目：20万円

国際人材育成基金の詳細については、以下をご確認ください。

<http://www.st.keio.ac.jp/contents/gakuso/gakusei/kakusyu/01259.htm>

その他、留学する学生へ向けた奨学金や学費についての情報は、国際センターのホームページにある奨学金のページに随時掲載しておりますので、活用してください。





## 留学体験記

グローバルリーダーシップセミナー実地研修 2016年度 派遣生  
化学科 3年 相原百花

大学入学後、理工学部ということもあり、授業や日々の生活で英語を使う機会がほとんどなくなり、自分の英語力の低下を感じると同時に、様々なことに自分の意見を持ちそれを他の誰かに共有したり発言したりすることが減ったな、と思っていました。そんなとき、理工学部生対象のグローバルリーダーシップセミナーの授業を知り、大学2年生の春学期に受講しました。これがきっかけで短期交換留学である GLS の実施研修に参加することを決めました。

慶應と韓国の高麗大学の学生が毎年交流するプログラムですが、今年からは早稲田大学と延世大学の生徒も数人交えて、高麗大学にて行われました。3日間の研修では、高麗大学のキャンパス内からはじまり、その後日本と韓国のそれぞれの教授のレクチャーや講義を受け、それについて日本人と韓国人の学生が混ざってディスカッションをしました。さらに、2日間かけて準備をし、5、6人のグループでプレゼンテーションを行いました。今年のプレゼンテーションのテーマは、「チームワークを必要とする科学者/技術者の倫理規定」という幅広かつ難しいものでした。幅広いテーマであったがゆえに、それぞれのグループが様々な方向性からこのテーマについて考え発表していたため、すべてのグループの発表が新鮮でとても面白いものになりました。発表するにあたって私のチームが意識したのは、チームワークといっても国際的なチームワークということでした。これはこのプログラム自体が国際的なチームワークを必要としていると感じたからです。プレゼンテーションを用意する過程で、言語の壁について大変と思う場面がたくさんありました。そういった自分たちも遭遇したことを取り入れたプレゼンにできたと思います。国際的なチームワークを必要とするときは、思いやりや信頼ももちろん必要ですが、共通言語となっている英語力が不可欠であるということをもっと学びました。しかし、ただ英語力が高いだけでなく、相手に伝わる英語力が必要であるとも思いました。誰もが理解しやすいように自分の言葉にした英語で伝える、というスキルが国際的なチームワークにはとても必要になると、このプロジェクトを通して感じました。プレゼンテーションの方法や内容を考えるのは大変でしたが、グループのメンバーと話し合い、一緒に考える時間はとても楽しかったです。

夜や最終日の自由行動の時間は、チームメイトを含めた韓国人の学生に色々なところに連れてってもらいました。カラオケや居酒屋など日本の学生が行くようなところが韓国にもたくさんあり、国は違っても学生生活における共通点を多く見つけることができました。最終日には仁寺洞を案内していただき、そこでは韓国の王殿をみたり、チマチョゴリを着たりと、日本とは全く違う韓国の文化に触れることができました。また、同じ理工学部生ということもあり、将来なにをしたいかという話で盛り上がることも多々ありました。日本の学生とは違う価値観を持つからこそその考え方がとても興味深いとともに、強く刺激を受けました。



このプログラムに参加させてもらい、3日間という短い時間ではありましたが、英語を使って意思疎通をする難しさや違う価値観を持つ人たちと意見を共有する楽しさを学びました。そして何よりもこのプログラムを通して新しい人脈を築けたことを嬉しく思います。10月には、韓国で仲良くなった学生が日本に遊びに来てくれ、日本の文化を紹介することもできました。一生大事にしていきたいと思うつながりを持つことができたこのプログラムに感謝すると同時に、ぜひ1人でも多くの慶應生にこのような海外交流ができるプログラムに魅力を感じ挑戦して欲しいと思います。

## 留学体験記

アーヘン工科大学 2016年度 サマースクール派遣生  
システムデザイン工学科 3年 原田大毅

「海外の大学で色々な事を学んでみたい。」参加しようと思ったきっかけは、研修の盛り沢山な内容への期待感や語学の力を高めたいという思いもありましたが、一番は純粋に海外で学んでみたいという好奇心でした。元々、海外に対して興味があり、在学中に留学してみたいとぼんやりとは思っていました。しかし、語学力にそんなに自信もないわりに、少し欲張りな私は、単なる英語の語学研修だけでは物足りないと考えていました。そんな中、ドイツ語も英語も学び、その上理工系の勉強もできるということに類を見ない短期研修のことを知り、これしかないと思い、すぐさま応募を決めました。



私は、2年生の夏休みにドイツ語エンジニアリング研修に参加してきました。行き先はドイツで最も西の町アーヘン。そこに3週間滞在し、アーヘン工科大学でドイツ語及びエンジニアリングについて学習しました。現地では基本的な活動として、平日の午前中はドイツ語によるドイツ語やドイツ文化についての授業、午後は理系科目全般についての授業がありました。私のドイツ語の学習歴は2年に満たず、ドイツ語の授業に不安を感じていました。しかし、先生は10年間このサマースクールにて日本人学生に教えて下さっている方で、日本人に対して非常に理解があり、優しくかつ根気強く教えて下さったため、苦に感じることなく、非常に楽しく学ぶことが出来ました。また、エンジニアリングについての授業では、ギアボックスや燃焼機関、生体触媒など、多様な項目について講義形式で学習しました。講義といっても日本の大学の授業と違い、少人数で授業が行われ、教授から沢山質問が投げかけられ、それについて考え意見を述べるというインタラクティブな授業でした。また、この授業では座学だけでなく、グループワークを通じて商品の価値や選択について学ぶ事や、現地の学生と共に実験室にて菌の培養実験なども含まれていました。講義は勿論、日常会話も英語やドイツ語で行われるため、耳が追いつかず聞き取れないことや、本当に伝えたい内容が上手く表現できず、もどかしく自分の実力不足を痛感することもありました。しかし、先生方や現地の友達は、伝えようとする姿勢や行動をきちんと評価してくれたため、挫けることなく何度も挑戦し、少しずつでも一歩一歩力を伸ばすことができたと感じています。

また、このサマースクールのもう一つの特徴はパディ制度です。パディというのは、このサマースクールの参加者1人1人に付き添い、共に活動してくれる現地のアーヘン工科大学の学生の事です。彼らの多くは、日本語を学んでいる学生であったため、私たち日本の学生の事もよく理解してくれ、学習面や日常生活でも細やかにサポートしてくれました。放課後や休日には、共に街へ繰り出し観光をしたり、ご飯を一緒に食べたりしながら、お互いの国や大学、将来のことなど様々な話をし、3週間という短い期間でしたが、凄く良い友人を得ることができたと思います。帰国後も連絡を取り合っており、今度は逆にパディ達が日本の大学に留学に来ることもあり、未だに途絶えることなく関係が続いています。

ここまで述べたように、このサマースクールでの3週間は、単なる在外研修に留まらず、非常に内容の濃いものでした。たった3週間、されど3週間。この研修を通じて私は語学の力や人脈は勿論、将来海外に進学や勤務するという目標も得ることが出来ました。長期留学は憚られるが短期ならと考えている人は勿論、短期留学で得られるものに疑問がある人や留学に興味はあるが不安を感じている人も、是非ともこういった短期研修や短期留学に参加してみてください。ほんの少しの勇気と好奇心があれば、未だ見ぬ広大な世界を知ることができます。実際に自ら足を運び、身をもって経験したことは決して無駄にはなりません。是非とも積極的に、留学に挑戦してほしいと思います。



## 留学体験記

エコールサントラルナント (ECN) 2015年度 フランス語フランス文化研修プログラム派遣生  
応用化学科 4年 土谷 澗

「いつかフランスに行ってみよう！」入学当初から持っていた大きな夢を叶えてくれたのは、ECNフランス語研修プログラムでした。私は指定校推薦での入学が決まってから、フランス語の学習を始めました。入学後も大学の授業でフランス語を学習していくうちに、フランスへの憧れが益々強くなっていき、出会ったのが、このプログラムでした。教科書で見ることができただけで遠いと思っていた私の憧れの国フランスは、このプログラムによって、少し身近な国になりました。

私と同じように、いつかフランスに行ってみようという思いを持ちながら、語学学習に取り組んでいる学生は多いのではないかと思います。学んだフランス語を実際に使うことで、ただの第2外国語では終わらせない、素敵なプログラムがここにあります。

私は、2年次の春休みに6週間のECNフランス語研修プログラムに参加しました。このプログラムでは、現地での生きたフランス語の習得とフランス文化への理解を深めることが目的となっており、6週間とは思えない充実したスケジュールが計画されています。ECNの先生による授業を受けますが、基本的な挨拶等から始めるため、安心してついていくことができます。また、実際に使う場面を想定した生きたフランス語の学習を重視しています。例えば、プログラム中はナントの歴史資料館やワイン工場見学など多くの遠足に出かけますが、遠足に出かける前日には必要な単語や前提知識を学習する授業内容が計画されていました。そのため、学んだ単語を使った説明を聞きながら、現地で実際に自分の目で見て学習することができます。最初はその日の宿題内容を理解することがやっとでしたが、プログラムの後半では、遠足先の係員の説明を理解することができるようになり、それがとても嬉しかったことを今でも覚えています。

授業以外にも、このプログラムではフランス人と交流する機会が多く用意されています。まず、6週間の研修はホームステイなので、フランス人の家族に交じって、フランスの生の暮らしを体験します。週末には少し遠出して景色の綺麗な所へピクニックに連れて行ってくれたり、友人を集めてのパーティーを催してくれたり、家族の一員のように接してくれました。家族との会話は、授業とは異なりスピードが速く、聞き取ることも難しいことが多かったのですが、私はその日に自分が言いたいことを前もって調べておくことや、日本のお土産を元に会話のきっかけを作ることを意識していました。

そして、この研修で最も印象に残っているのは、ECNの学生たちと過ごした時間と、彼らのとても親切なサポートです。彼らの多くは、ECNの日本クラブに所属し、日本語も学習しており、既に慶應へのダブルディグリーを決めている学生も数名いました。研修中は毎日のお昼の時間と放課後の時間を共にしてくれ、週末



を利用したパリへの遠足も付き添ってくれます。彼らの人柄、語学力、そして理工学の知識は本当に尊敬することが多く、そのような友人を何人も作ることは、私のとても大きな財産だと思います。実際に、今でも矢上キャンパスでダブルディグリーに来ているECNの学生と会うことができ、一緒に食堂でお昼を食べることもあります。遠い存在と思っていたフランスが、今ではとても身近に感じます。

ECNフランス語研修プログラムは僅か6週間ですが、その価値は研修後もずっと残り続けます。これは他の海外プログラムにも当てはまることだと思いますが、大学生のうち自分の目で海外のことを知り、学生と交流することで、とても良い刺激を受けることができると思います。ECNフランス語研修プログラムは、フランスに行ってみよう、海外の友人を作りたい人、海外大学の雰囲気を知りたい人など様々な人が満足できる内容になっているので、是非多くの塾生にこの研修プログラムについて知ってもらい、挑戦して欲しいと思います。

## 留学体験記

ミュンヘン工科大学 2015年度 研究研修派遣生  
開放環境科学専攻 2016年度 修士課程修了 清水友也

私は、学部3年生・4年生の頃、ずっと就職するか進学するか非常に悩んでいました。最終的に進学を決めたわけですが、その一番の大きな理由は、留学をどうしてもしたかったからです。しかし、私の所属する理工学系では就職する人も多く、彼らとは社会人経験の差が生まれることはわかっていましたし、大学院生になることは2年間の学費と収入の差で数百万は違うため、あの時大学院進学を選択してよかった、と後から思える大学院生活にしよう、と心に決めました。その中でも、私は留学と国際学会発表を個人的な目標にして取り組もうと決め、準備を進めていました。



留学自体は、学部2年生のころにマイアミに語学留学をしてから、ずっと興味を持ち考えてきました。しかし、自身の語学力の不安と、大学のカリキュラムを考慮するとどうしても留学をすると1年遅れ、学費も余計にかかってしまう、ということが頭にあり、なかなか決断までに至りませんでした。そういった状況で、大学院生を対象にしたこの研修研究は、期間が半年間と短めではあるものの、修士課程を通常の2年間だけで修了できるということもあり、ベストな選択肢ではないかと考え、ミュンヘン工科大学に留学を決めました。また、学部4年生のころに、指導教授の松川教授にミュンヘン工科大学の教授を紹介してもらい、一度直接お話しする機会があったこともミュンヘン工科大学を選んだ大きなきっかけでした。

現地では、半年間しかなかったため、1日1日を充実させよう、と様々なことに取り組んでいました。一番印象的で貴重だった体験は、留学の終盤である2月下旬に、私とミュンヘン工科大学の教授、そして松川教授で参加をしたオーストリアでの国際学会発表でした。留学期間中、アブストラクトからフルペーパーまで、教授の指導およびディスカッションに時間を費やした経験は、今思えばやり遂げられて本当に良かったと感じています。英語で自分の考えをなかなか思うように伝えられなかったことや、学会発表や英語での発表自体経験がなく不安が大きかったこと、そして周囲が遊んでいる時に締め切りに追われて取り組むことに大きなストレスを感じたことも事実ですが、それを1つ1つ乗り越えてできたことは、日本では決してできない経験でしたし、自身の成長にもつながったのではないかと感じています。

ほかにも、ドイツにいるからこそできることもたくさん経験しました。オクトーバーフェスやクリスマスマーケットは本当に魅力的でした。特にミュンヘンのオクトーバーフェスは日本とは比較にならないほど大きな規模で、世界中から毎回600万人もの人が集まってビールを楽しむイベントで、地元の老夫婦の人や、普段の生活ではかかわりが少ない南米の人など、見知らぬ人たちと同じビールを飲みながらおしゃべりをしたことは、非常に印象的で、今でも鮮明に記憶に残っています。

また、私は留学だけに焦点をあててしまうと、研究や取得単位、就職活動に影響が出てしまうと考えたので、大学院生活全体の計画を立てることも注意していました。特に、私は修士1年秋学期に留学をしたため、就職活動については常に頭に入れていました。修士1年の春学期は、研究をできる限り進めること、修了に必要な単位を取りきること、就職活動(およびその準備)を中心に取り組まれました。ドイツ語や英語力の向上に時間を割けなかったのは、もったいない気もしたのですが、結果的に就職活動を優先して取り組んだことは留学後の不安が少なく、留学生生活を十分に充実したものにできたと思っています。

留学をしてみたい、と思っている方は多いと思いますが、一方でお金もかかる上に、周囲と卒業も遅れる等の不安がある人も多いと思います。私もその一人でしたが、きちんと調べて、計画を立て、目的意識を持って行動をすれば、自分の最もよい選択肢が見つかると思います。